

国際冷熱技術研修センターの事業に感動 サクチャイさん（第1期生）の工場を訪問

報告者 宮崎 藤治（元日設連業務部長）

このほどタイ・バンコクでRHVAC 2005（冷凍空調展）が開かれたのを機に、東京冷凍空調事業協同組合（沖原正宣理事長）が9月13～17日まで視察研修団を派遣した。実質3日間の短い滞在中、展示会視察のほか国際冷熱技術研修センター（TTC）訪問、B.K.サイメックス社で日本研修第1期生のサクチャイ・フジャイ社長との懇談などを精力的にこなした。以下はその同行記である。

§ 副首相が出席したRHVAC開会式に参加

東京から6時間の空の旅のあとバンコクに9月13日午後到着したタイ研修視察団一行8名は、ホテル近くのシーフード・レストランで本格的タイ料理を堪能するなどして休養、翌14日10時からのRHVAC展開会式に臨んだ。（写真1）

展示会会場はバンコク市郊外に昨年完成したばかりのBITEC（タイ国際展示センター）で予定の朝10時を1時間ほど遅れて開会式が始まった。

ソムキッド・ジャトスピック副首相・貿易相は「タイのエアコン産業は世界でも5大リーダーのひとつで、年率10～15%の成長を遂げている、毎年600万台以上を輸出している重要産業であるが、



写真1 開会式であいさつするソムキッド副首相

今回の展示会はIAQ（快適室内環境）や省エネルギーが重要なテーマになる」とスピーチ。

展示会には日本を含む内外の200社が出展、地元メーカーの健闘ぶりが目立った。

組合ではかねてから優秀な海外の冷凍空調機器を発掘、日本で普及させることを目的として今年1月には米フロリダ市オーランドで開催のAHR・EXPO（国際冷凍空調展）、4月の北京・国際制冷展にも視察団を派遣、今回のバンコク展では日本にはないユニークで安価なエアコンを発見、早速、見積りを取寄せるなどビジネスに反映させる動きが始まっている。

同日午後遅く、市内観光に向かった一行は土砂降りの雨の中、王宮やエメラルド寺院などを訪れ「東の間の観光気分」も味わった。

§ 定着したTTC事業に感銘

翌15日は前日の土砂降りの雨も嘘のような時折薄日もさす天気となり、一行は最初の訪問先、国際冷熱技術研修センターへ。同センターは1993年4月、タイ工業省と（社）日本冷凍空調設備工業連合会（日設連）の共同事業としてスタート。開会式にはサナン工業大臣、故須郷道也元日設連会長らが出席、盛大に挙行された（写真2、3）。

このプロジェクトにタイ側担当者として携ってきたパヌワット・トリヤンクリスリ・タイ工業省工業振興局部長と川島透TTC所長が事務局応接室で一行を歓迎、川島所長からTTCの歴史と最近の活動について説明があった。

それによるとTTCでの1年修了者は450名、うち日本で研修したのは120名にのぼる。最初の5年経過後、TTCの運営は全面的にタイ側に移管され、TTCは独自に地方での3ヵ月の研修も実施。昨年9月末現在でTTCの1年修了者も合わせて520名がコ



写真2 TTCを訪問した視察団一行



写真4 工業省次官補を表敬の筆者



写真3 熱心に講義を聞く研修生

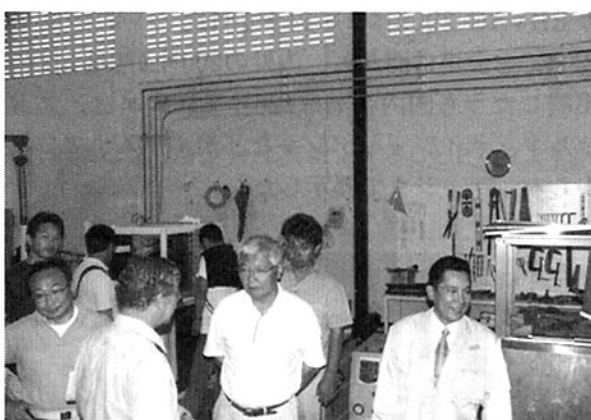


写真5 サイメック社で視察、右端がサクチャイ社長

ースを修了している。

TTCのスタッフはセンター長の川島氏をはじめ講師4名（いずれも日本での研修経験者）、研修助手2名、秘書1名、事務員2名の構成となっている。

なお、当日午前中、他の先約で別行動の一行に代わって筆者は、タイ工業省にパディパイメーション・ヌタヤクル事務次官補を表敬訪問。川島所長、青山 登・三菱電機カンヨンワタナ社プロジェクト・マネジャーとともにパヌワット氏の通訳で歓談。筆者からは東京冷凍空調事業協同組合の現状を紹介するとともにTTC事業のスタート時に関与した当事者として、日本への研修生招へい者の拡大と、日本政府が計画しているアフリカ支援計画にTTCを活用する南・南支援（進んだ途上国が遅れた途上国に日本の財政支援で技術教育を展開するプロジェクト）の実現を期待したい、との意向を表明した（写真4）。

§ BKサイメックでサクチャイ社長の再会

一行が次に訪れたのはバンコク・ブラヴェット地区・ラーマ9世通りに面したBKサイメック社。同社のサクチャイ・フジャイ社長は、TTC第1期卒業生として1年間、日本の東京三冷社（現、三冷社、是常 博社長）での研修生。10年以上も経つのに濃みのない日本語で会社の現状を説明した。

現在38歳のサクチャイ社長は、サービス部門に40人のスタッフを抱える会社のオーナー。今回視察した産業用ウォータークーラー工場は設計・据付・サービスで15名が働いている（写真5）。

金型加工工程などの冷却に用いられるクーラーは月産5～20台のペースで生産、最近ではベトナムにも販路を拡大、年間45万パーツを売上げている。

来日時に面識のあった筆者とサクチャイ社長は東京・砂町の三冷社での研修担当者だった須永一仁氏（故人）の思い出、機会あるごとにサクチャイ社長の成功ぶりを我がことのように喜び、人び

とに語っている是常社長のことなどを話題に歓談した。

翌16日、チェンマイに移動した一行は、訪問先のキャンセルで急拠、ゴルフに予定を変更、短いタイでの休日を満喫し、夕方はチェンマイ文化センターで伝統的タイ舞踊と料理を楽しみ、翌17日朝帰国の途についた（以上、写真提供：川島 透氏）。

内外の200社が出展、世界のリーダーを誇示 今年からE&E展も併催、参観者動員も

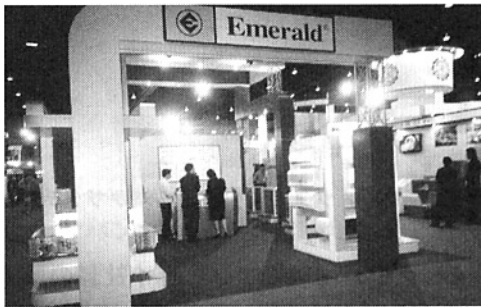
RHVAC 2005は9月14～18日、バンコクのBITECを会場に開かれ、内外の200社が498小間に出展したうち国内企業は126社でユニエア、エメラルド、サイジョーデンキなどがルームエアコンからパッケージまで展示した。

海外からは日本の三菱電機、三菱重工、出光石油などが現地法人として出展。米国、イタリア、中国、韓国、インド、マレーシアなどからコンプレッサーやエアコンの機種を展示した。

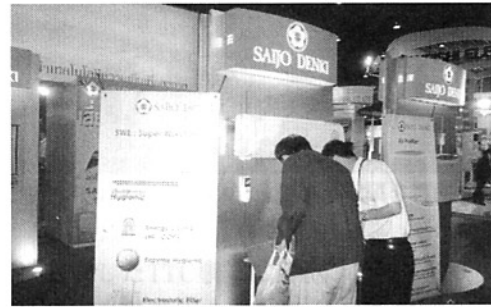
今回はE&E（電気・電子展）とオートパーツ展が併催され、海外からのバイヤーも日本、オーストラリア、米国、欧州、中東諸国にまで及んだ。

タイ商務省のデータによるとタイのエアコン輸出は2004年実績で19億9,700万ドル、前年比39.6%増の急成長を遂げている。主な輸出先ではイタリアが2億5,200万ドルで全体の12.6%を占めトップ、日本は第4位で1億6,000万ドル、8.05%で、前年比15%増となっている。輸出先はベルギー、米国、アラブ諸国、南アフリカなど世界各地に広がっている。

次回のRHVAC展は2007年9月12～15日の予定。



地元エアコンメーカーが健闘



タイでも高COPがセールスポイント



韓国LGはプラズマエアコンなど展示



イタリア・ドーリンは自然冷媒冷凍機



除湿で省エネ空調をアピール



小型から業務用エアコンまで出展のユニエア